



グラミン・クレジット(Grameen credit)

開発経済調査部 主任研究員 古屋 力

貧しい人々が自立するために必要な小額の資金を無担保で融資する金融のことを、「マイクロクレジット(乃至はマイクロファイナンス)」と呼ぶ。8年前の1997年、ワシントンに世界中137の国から国際機関、政府、マイクロクレジット機関、NGOなどの代表者2,900名以上が集まり第1回目の「マイクロクレジット・サミット」が開催された。その際に、2005年までに世界中の1億世帯の貧困家庭に経済的自立を促すマイクロクレジットを提供するという目標が定められた。その意味で今年、マイクロクレジット関係者にとり重要なゴールの年ということになる。因みに、来年11月にはカナダのハリファックスで第二回目の「グローバル・マイクロクレジット・サミット」が開催され、目標に向けた活動について総括がなされることになっている(注1)。

そのようなマイクロクレジットの中で、極めてユニークな存在と言えるものにバングラデシュのグラミン銀行(Grameen Bank-農村銀行)がある。グラミン銀行の原点は、当時チッタゴン大学の教授であったユヌス氏(Professor Muhammad Yunus)が1976年に開始したささやかな試みにある。1960年代米国で経済学を学びバングラデシュ独立後帰国し母校の大学で教鞭をとっていたユヌス教授は、1974年の大飢饉の際、貧しい人々の救済活動を通じ、机上の経済理論と現実との乖離に直面し愕然とする。そして、彼は自ら保証人となり、銀行に貧しい人々への融資を行わせた。こうした貧困層への融資は拡大を続け、1983年グラミン銀行設立に至る。彼の信念は、以下の3点に集約される。

- (1)貧困層を貧しくしているのは、貧困ではなく貧困層を取り囲んでいる仕組みや政策である。
- (2)貧困層は熟練が不足しているから貧しいのではなく、彼らが持っている熟練が有効に活用されていないから貧しいのである。
- (3)慈善(charity)は貧困の解決にならずむしろ貧困を存続させるだけであり、貧困層自身による個々人のイニシアティブこそが重要である(注2)。

グラミン銀行ではこうした貧困層向けの小額無担保融資を「グラミン・クレジット」と呼んでいるが、グラミン・クレジットにおいては、「担保」や「契約書」でなく借入人の「信頼(trust)」に基き融資を実行する。グラミン・クレジットの考え方の基本は「自立」にある。例えば、貧困層への食料援助では、援助の受け手に依存心が生まれる。一方、グラミン・クレジットにおいては、貧困層の自助努力を通じた自立を促すことを主眼とする。借入人は、グラミン銀行の指導の下、事業の進め方、利益の生み出し方、返済の仕方まで自ら考え実行してゆくことになり、それを通じて自立、ひいては貧困解消へと繋がるのが期待される。古来から日本にある「頼母子講」とも類似点があるが、

貧困層の自立を促すことに力点を置いている点がユニークである。また、借入手続もユニークである。最初に、借入人は5人1組の「借入人グループ」に加入する。借入人はグループ内で順番に融資を受けることになるが、一人が返済を完了しないと次の人が融資を得られない。この仲間を裏切れない気持ちと仲間からの見えないプレッシャーが、金融機関にとっての信用補完となる。これを同行は、「切れ目のない鎖(continuous sequence)」方式と呼んでいる。

このようなスキームが奏功して貧民層を相手にしているにもかかわらず、回収率(注3)は98.93%と高い。2005年4月現在395,612人の会員が利用しており、貸出残高は3.5億米ドル相当、預金残高は3.6億米ドル相当にもなり、収益は7.3百万米ドル(注4)を計上、その資産規模は同国金融機関の中で10位である。バングラデシュ銀行の資料によると、グラミン銀行以外にも同国だけでマイクロクレジット機関が1,000以上はありと言われている。こうした小口金融の対象は、13百万世帯にもものぼる(注5)。もっとも、かならずしも全てが成功している訳ではなくこうした金融機関につきものとも言える経営の不透明性の問題もあるようだ。

グラミン銀行のあり方は、バングラデシュ国内のみならず外国も含めた多くの人々の共感を呼んでいる。ヒラリー・クリントン上院議員は、自らの回顧録『リビング・ヒストリー』の中で、グラミン銀行を訪問した際に、その銀行の支援を受けながら電気も水もない小さな村で自らの生活を切り拓いてる女性の生き方に感動した様子を描いている(注6)。30年前のユヌス教授の個人的な試みから始まったグラミン銀行であるが、ミレニアム開発目標の1つである貧困の撲滅について考える時、経済協力のあり方乃至金融機関の融資活動につき多くの示唆を与えていると言えよう。

(注1) <http://www.globalmicrocreditsummit2006.org/>

(注2) Yunus,M.(2005) Grameen Bank at a Glance

(注3) recovery rate(amount repaid as a percentage of amount due as May 2005)Ditto(2005)

(注4) 収益は2004年12月期の Net profit for the year。 Yunus,M.(2005) Grameen Bank at a Glance

(注5) 2002年6月時点 Bangladesh Bank(2005)'Financial System, Microfinance Institutions'

(注6) Hillary Rodham Clinton(2003) Living History

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2005 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>